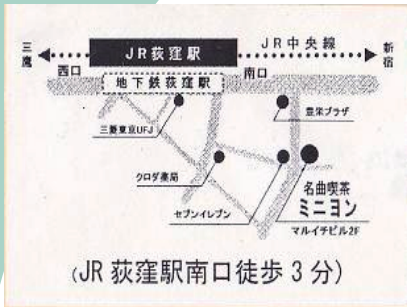


バツハと ながよし

Vol.10/10
ながよし

2023年
12/19 火
14:45開場
15:00開演
16:30終演
名曲喫茶「ミニヨン」
サロンルーム



一般社団法人
日本バツハ協会

- ・ J.S. バツハ作曲
- ・ フランス組曲
- ・ 平均律クラヴィーア曲集より
- ・ 他

《演奏曲目》

チケット代：5,000円
ワンドリンク付き 全席自由



富山出身のバツハおじさん。
ながれ流れていまは
異国に住んでいます。
バツハとは友達同士。

日本バツハ協会会長 高野昭夫

ヨーロッパからの来日公演



チェンバロ



ジャン・クリストフ・デジュー Jean-Christophe Dijoux

フランスのチェンバロ奏者ジャン・クリストフ・デジューは、同世代の傑出したチェンバロ奏者の一人として知られています。2014年のバツハ国際チェンバロ・コンクールで第1位を受賞した彼は、「音楽ラインの絶妙なセンスと修辭的ジェスチャーの微妙なセンス」(A. ベンソン・ウィルソン)、そして「彼のフレージングと、音を一緒に演奏しないという微妙な芸術の両方において、驚異的な時間のコントロールを行っています。」(B. リーマン)。彼の最初のソロCD「Varietas」は2016年にリリースされました。すぐに批評家から賞賛され、2016年8月にレコード芸術誌の「今月のCD」に選ばれました。この曲はSWR、WDR、フランス・ミュージックなどで放映されました。ライブツィヒでの成功に加え、マクデブルクのテレマン国際コンクール(最も優れた通奏低音の実現に特別賞)など、いくつかの室内楽コンクールで優勝し、室内楽ではアン・フライターグ(フルート)との二重奏で第1位を獲得した。ラクイラ大会とサン・ジネーシオ大会。ソリストとして、またはアンサンブル(Les Talens Lyriques、Bach Collegium Japan、Balthasar-Neumann Ensemble、Le Parlement de Musique ia)の共同制作者として、ライブツィヒのバツハフェスト、クラヴィエ音楽祭など、数多くの著名なフェスティバルやコンサートシリーズで演奏してきました。ジャン・クリストフ・デジューは、16世紀から21世紀までのレパートリーを演奏するなど、その奥深い多才さで頭角を現しています。パリ国立高等音楽院でピアノ、和声、対位法を学びながら、定期的に演奏する楽器であるチェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノなどの歴史的な鍵盤についての知識を深めました。フランスでピアノと歴史的演奏の実践を専攻して卒業した後、フライブルク音楽大学(ロバート・ヒルとマイケル・ベリンガーのチェンバロクラス)とスコラ・カントルム・バジリエンス(音楽の通奏低音クラス)の両方で優秀な成績で学位を取得しました。ヨルク=アンドレアス・ベッティヒャーとイエスパー・クリステンセン)。彼は2019年にデトモルト音楽大学の歴史に基づいた演奏の教授に任命され、2020年にはロバート・ヒルの後任としてフライブルク音楽大学の歴史に基づいた演奏部門の部長として招待されました。